

今日はず、これからの季節に出勤が増える傘についてお話ししたいと思います。

日本において傘が広く使われるようになったのは、江戸時代のことだとされています。人々の生活が少しずつ豊かになり、それまで上流階級のものであった傘も、庶民に手が届くものになっていきます。傘を作る職人の数も増え、新しい技術も生まれてくるようになります。そして、丈夫な傘が安く出回るようになっていきました。

そんな中、傘を貸し出すところも現れます。急に雨が降ってきたときに、ある呉服屋さんがお客さんに貸し出したのが始まりだと言われています。店の名前が大きく書かれた傘は、さぞ目立ったことだと思います。

ところで、当時、男性も日傘を差していたということは御存じでしたか。私は初めて知りました。

ところが、男性の日傘は何度も禁止されてしまいました。江戸においては、擦れ違ふときに日傘をぶつけてけんかをするのがよくあったそう、そんなこともあって、禁止されたということでもあります。

しかし、それでも男性の日傘がなくなることはありませんでした。昭和の時代になってからも、日傘を持つ男性の姿を見ることができたのであります。

さて、しばらくはほとんど見かけることのなかった男性の日傘でありますけれども、最近、町なかで目にする機会も増えてきました。暑い夏が続いていることもあり、男性が日傘を持つことへの抵抗もなくなりつつあるのではないかと思います。

今年の夏も猛暑が予想されています。果たして男性の日傘姿はどれだけ見られるでしょうか。では、次のお話に移りたいと思います。

今、日本では、個人の消費がなかなか伸びないということが問題になっています。政府もいろいろな対策を講じて、消費の拡大を図ろうとしています。いい結果は出ていないように思います。

実は、日本人の消費に対する考え方は意外と**堅実**だということが言われています。いつときぜいたくをして、あとはお金に苦勞する人生を送るよりは、一定の生活レベルを維持するような生き方を好むということでもあります。もう一

つは、自分が一生のうちでどのくらいのお金を使っても大丈夫かということを意識しているということでもあります。もちろん、どちらも例外はあると思いますが、全体として見ると、堅実な消費の仕方を好むということが言えると思います。

こういう傾向を持つ日本の人々に消費を伸ばしてもらうためには、どのような政策が考えられるのでしょうか。多くの案が示されていますが、そのうちの一つは、安定的な収入の増加を人々が常に期待できるようにすることです。しかし、そのためには、経済が着実に成長していく必要があります。

もう一つは、政府が給付するお金の配分先を変えたいというものであります。政府には、所得が少ない人々に対する給付金などの制度があります。しかし、その対象となる高齢者の中には、今の所得こそ少ないものの、それなりの資産を持つている人もかなりいることが分かっています。その分を子育て世代などに回すことができれば、消費につながるのではないかと**あります**。(丁)